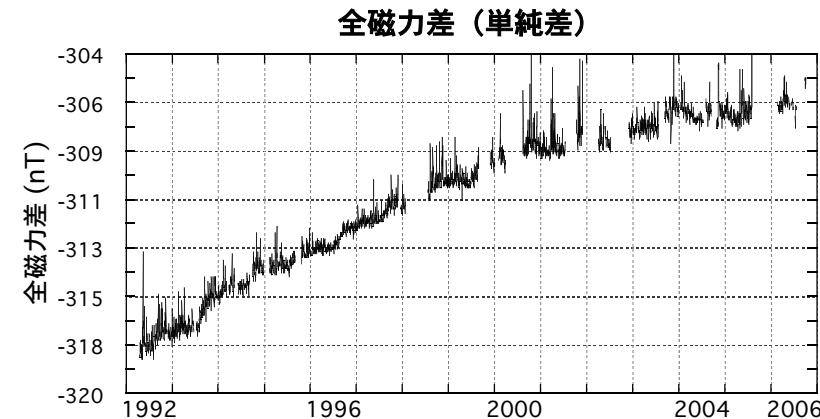
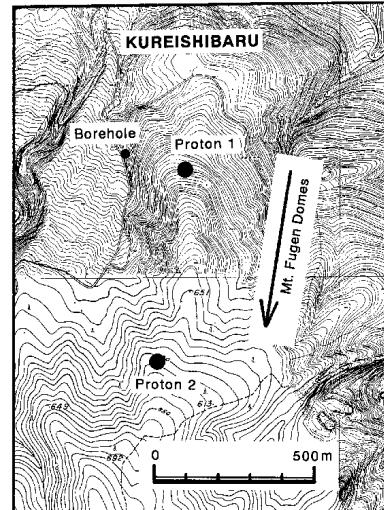
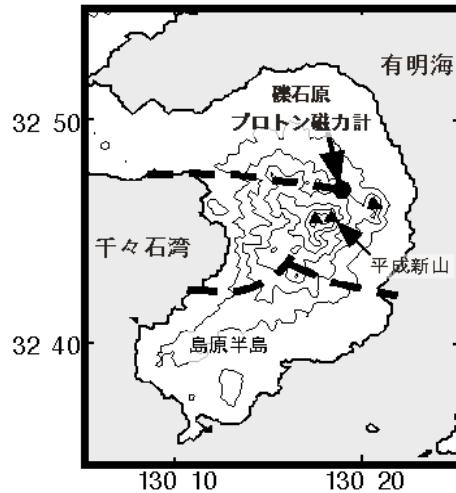
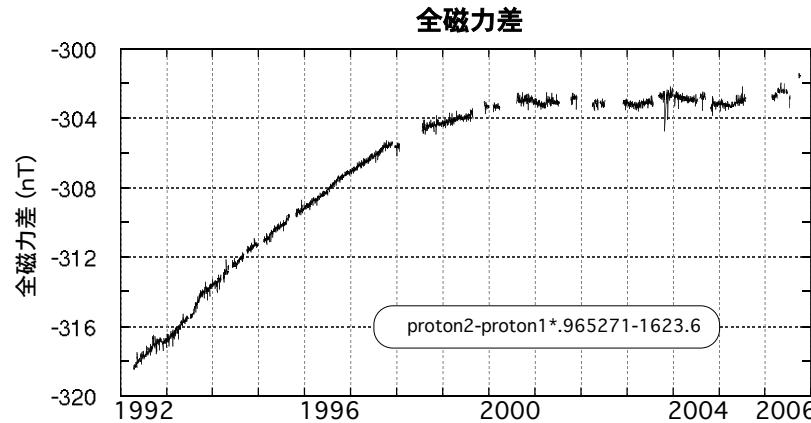
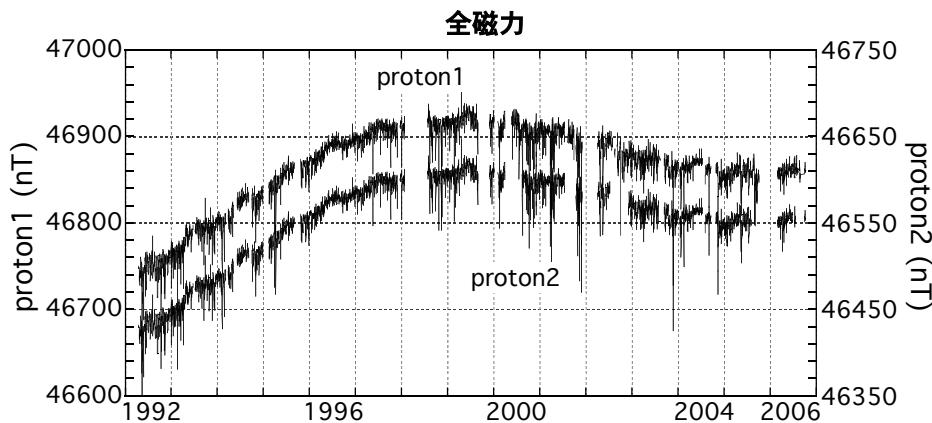


雲仙岳北麓における全磁力変化

九州大学地震火山観測研究センター



単純差では約1.2nT/yrの増加傾向が見られる。このうち両地点には
1度05分の伏角の違いがあり、最近の九州地方の地磁気永年変化
(垂直分力+30nT/yr) を考えると、約+0.4nT/yrは永年変化で説明できる。



2地点の全磁力差のはらつきが最小になるように1992年5,6月のデータを
使用して係数を決定した。2000年より全磁力差が頭打ちとなり、消磁傾
向がおさまった。